

2013 年度（対象年度：2012）自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 6	学生支援
------	------

・自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
602	学生への修学支援は適切に行われていますか。	留年者および休・退学者の状況の把握し、適切に対処していますか。【どのように】	B	B
		補習教育に関する支援体制を構築し、補習教育を実施していますか。【どのように】	A	
		障がいのある学生に対する修学支援措置を実施していますか。【どのように】	B	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

策定した「修学支援の方針」のもと、次のような取り組みを行っている。  
 留年者や休・退学者については、当該学生に退学願を提出させるなどして各学部・研究科が把握し、必要に応じて学生や保護者との面談を実施している。しかしながら、退学率が他大学と比較して多い状況にあり、全学的な改善が課題である。  
 補習教育に関しては、一部の学部で自学自習用の E-learning を活用し支援している。社会学部を除く全ての学部が、オフィスアワーを導入している。  
 障がい学生に対する修学支援に関しては、支援を必要とする学生の把握を行うとともに、支援を希望する学生の申し出や、各学部窓口、担当教員等の勧めによる申し出により、障がい学生一人一人のニーズを把握の上、必要な支援（点訳・ノートテイク等）を実施している。また、支援の対象・範囲を 2012 年度から明確化し、障がい学生支援委員会で確認されている。しかしながら、組織的な支援という点において問題があり、全学的な支援体制の改善が必要である。

[改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

- ・障がい学生の実態把握と支援体制の充実。
- ・具体的な修学支援活動を、全学的な修学支援の方針のもとに実施することが必要である。そのために全学的な修学支援の方針を定めていただきたい。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

- ・修学支援の方針を策定し、部局長会で承認がなされた。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。
・ 関西主要 8 大学の中で本学は最も退学率が高いという問題もあり、退学状況を分析した結果、各学部窓口での退学理由の把握方法にバラつきがあることが判明した。問題解決にあたり、退学理由をきめ細かく把握する必要があることから、大学全体の視点で、留年者・休学希望者・退学希望者への対処の改善を行う。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
602	2012 年度の障がい学生への教育援助について

・ 評価結果

総評
<p>修学支援の方針を関連部署で連携して策定し、それに基づき各種支援を行っていることから、適切であると評価できる。</p> <p>退学率が他大学と比較して多い状況にある点については、「改善すべき点とその改善方策」を推進し、ネガティブな退学者を減少させる方策を検討していただきたい。</p>
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
・ 修学支援の方針を関連部署で連携して策定したこと。
改善すべき点 《箇条書き》 * 各項に [改善勧告] [努力課題] 又は [留意点] を記載
・ 退学率が他大学と比較して多い状況にある点については、「改善すべき点とその改善方策」を推進し、ネガティブな退学者を減少させる方策を検討していただきたい。【留意点】
[改善勧告] [努力課題] は、改善計画書の提出が必要